

THE リアルタイム

発行者 サポートセンター連 広報担当 横浜市旭区柏町59-2 Tel 045-360-9778 Fax 045-360-7004

社会福祉法人 訪問の家 ホームページ <http://www.houmon-no-ie.or.jp/>

旭区地域自立支援協議会 ホームページ <http://asahiku-net.com/>



（羽田） 旅行という非日常の空間が「一緒に旅を楽しむ関係」に変えてくれます。旅行ではこの「一緒に楽しむ」という空間が作られているからこそ、利用者・スタッフ共に楽しい表情、リラックスした表情でいられるのだと思います。今後も大にしたい機会だと感じま

表題の通りつづく思います。今年度、連の一泊旅行は利用者・職員合わせ六、八名の少人数で行く旅行に形を変え実施しました。今回私は十一月の山梨の旅行に同行しました。忍びの里では私も一緒に忍者のコスプレをし、嬉しそうな利用者さんの姿がとても印象的でした。ほかにも、体験コーナーでバターを真剣な表情で作る姿、みんなでゆっくりと温泉に入ったりと、それぞれが思い描く旅行になったのではと感じました。少人数ならではの旅行プランを練り実施することが出来たことは、自分にとっても記憶に残る旅行になりました。

「旅行つていいな



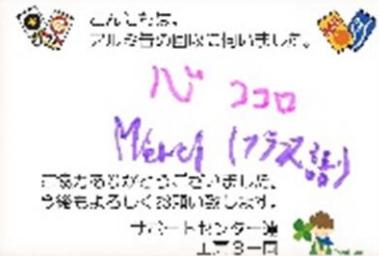


たかがアルミ缶、されどアルミ缶

Rさんは、若いころに学んだ英語やフランス語の語学を活かして、アルミ缶の回収先のお宅にお礼状を書いています。「merci」「thank you」と、ゆっくりとした腕の動きで大きく目を見開き、気持ちを込めてメッセージを書きます。

ある日Rさんが回収に行った際、回収先の方から「フランス語で書いてくれてすごいわね！」と言っていただきました。Rさんは「まあね」と得意気に彼らしい返事をします。そして偶然にも、このお宅のワンちゃんは「アミちゃん」と言って、フランス語で“友だち”という意味だそうです。このアミちゃんがいつも嬉しそうに迎えてくれています。

なんとも微笑ましく、そして素敵だなと思う場面です。



サポートセンター連（以下：連）では、利用者である障害のある人の活動として、アルミ缶のリサイクル作業を行っています。なぜアルミ缶なのか？？それにはいくつか訳があります。

例えば麻痺により手をうまく握れない身体障害の人でも、缶であれば持つことができます。

また知的障害により細かい理解が苦手な人でも、作業工程が粗大なため分かりやすく、さらに空き缶を潰すときの、「ガチャン」という音や振動がやりがいになっている人もいます。

そして何より回収を通して地域を歩き、回収先の方々とお会いできることです。

Rさんは大学院卒業後、大手企業で活躍する会社員でしたが、20代の働き盛りのときに交通事故に逢い、完全車いす生活とあわせて脳に重大な損傷（高次脳機能障害）を負いました。

少し前のことも忘れてしまう記憶障害や、感情のコントロールもうまくいかない中、Rさんは自分の障害と向き合い、受傷後の人生を模索しながら20年以上生活してきました。

冒頭の回収の場面は、Rさんの強みを活かした活動の一コマですが、回収先の方とのささやかなつながりは、Rさんが地域の中で生きていくうえでの大きな支えになると考えています。

平成28年7月、相模原市の障害者施設で、入所者19人が刺殺され、26人が重軽傷を負うという衝撃的な事件が起こりました。犯人は、「障害者はいなくなった方がいい」との主張から犯行に及んだとされ、事件後には、犯行の一部を肯定するかのようなインターネットやSNS上の書き込みも散見されました。

この事件は現在裁判が行われおり、犯人は司法によって裁かれることになりますが、それとは別に、私たちは立ち止まって考えなければいけないと思います。

“生産性があるかないか”といった尺度で、人の価値どころか「いのち」までも測っていないか…この事件はそう問いかけているように思えてしまいます。

人はみな弱い存在です。今は元気に過ごしていても、明日どのような状況に直面するか分かりません。そうした誰もが有する“弱さ”を認め合う社会を大切にしていきたいと思います。

ある日、不在にしていることが多い回収先のお宅に伺った際、玄関先に置いてあるアルミ缶の入ったビニール袋にお手製の取っ手が付いていました。

障害のある人たちが“少しでも持ちやすく”といった心遣いと思われます。関係性の温かさにこそ「価値」を持たなければと教えられました。



（白鳥）

令和元年一泊旅行

メモリック

【今年度の旅行の日程ご紹介】

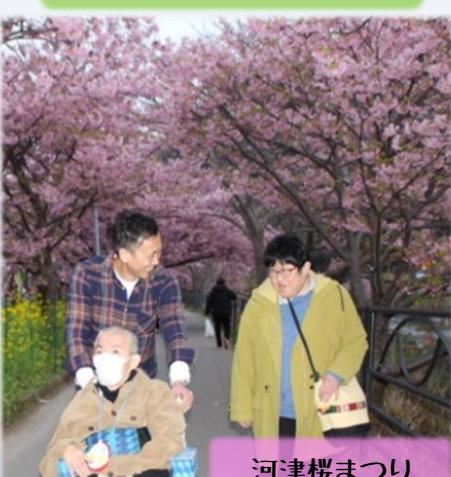
- ◆10月・11月：風林火山の町「山梨」石和温泉、忍びの里、朝霧まかい牧場…など
- ◆12月・1月：イルミネーション光の「伊豆・稻取」ぐらんぱる公園、シャボテン公園…など
- ◆2月第1弾！：河津桜まつり「伊豆稻取温泉」◆2月第2弾！：動物と自然と触れ合う「伊豆稻取温泉」
- ◆3月：女子旅「湯河原」星のお王子様ミュージアムへ…の、全7コースでしたが、10月から実施させて頂いた旅行は2月の第1弾までは順調に実施させて頂きましたが、2月の第2弾！と3月のコースは新型コロナウイルスの感染拡大により自粛となり、残念ながら未実施となってしまいました。



今回わたしは10月の山梨の旅に同行しました。天候は2日間とも雨（笑）となっていましたが、楽しい事もたくさんありました。まずホテルのお部屋の広さに皆で驚き！！広いお部屋ではなぜか皆で固まって座ったり（笑）貸し切り風呂も楽しんできました。体験プランはチーズ作りでしたが、利用者さんが初めて体験するものと一緒に経験することで、同じ気持ちを感じられたように思いました。また、移動の車に乗る際にシートベルトが苦手な人を手伝う姿を見せてくれた利用者さんがいました。私は入職一年目で、初旅行でしたので戸惑ってしまうこともありましたが、利用者さんの普段とは違う表情や行動がたくさんあり、より本人たちの事を知れた2日間になりました。
(仲宗根)



従来の「大型バスで大移動！」の旅も大勢でワイワイと楽しいものでしたが、人数が多い事で様々な利用者さんが混合となりペースの違いが生れる事も多くありました。そこで今年度は少人数での「旅」ということで、コンセプトは参加者各々のペースや楽しみ方を旅行プランに反映することです。また、時に天候によっては柔軟的にプランを変更したりし、職員も少ない人数で考え柔軟な判断や意見を出し合う事が、良い経験の一つとなった様に感じました。そして利用者さんと共に旅行を満喫することができたのではないかと思っています。（小原）



成人を祝う会

1月14日に成人を祝う会を行いました。今年の成人は工房2の清水啓太さんです！名里理事長をはじめ、母校から先生も駆けつけてくださいました。会が始める前、出番を待つ啓太さんはやや緊張した様子…。同伴した私も一緒に緊張していました（笑）しかし、会が始まると少しずつ緊張が解けていく様子の啓太さん。白鳥所長with事務員のお2人による楽器の演奏では手を叩き楽しそうな様子が見られました♪所属している工房2の仲間からは色紙と記念品の写真立てのプレゼントがありました。



今回初めて「半ヶ谷囃子保存会」の方々が来てくださいり獅子舞を披露してくださいました。好奇心旺盛な啓太さんは獅子舞に手を伸ばしたり口の中におひねりを入れ、頭を噛まれたりと大変盛り上がっていました！



啓太さんへ

今年度、缶作業や缶回収で力を発揮し地域の方との交流も増えてきた啓太さん。これからも一緒に地域の方にこの笑顔を届けられるよう楽しく活動していきましょう！！（水野）

グリーンガーデン～緑の庭～

工房2 板宮です

梅の花が咲き始め、春の足音が聞こえてくる今日この頃です。今回は連に植えられている珍しい桜【ギヨイコウ】を紹介させていただきます。

【ギヨイコウ】は【ソメイヨシノ】より開花が遅く、4月から5月にかけ薄緑色の花を咲かせます。薄緑一色で咲いた花は終わりが近付くにつれて、次第に中心が紅く染まっていきます。青い空に映える薄緑の桜。ぜひ連に見に来てください。

板宮伸一郎です

【ギヨイコウの生まれ】

江戸時代に京都の仁和寺で誕生したと云われる。

【名前の由来】
江戸時代の貴族が着ていた衣服の萌黄色から



連のアルミ缶回収活動～新たな出会い～

連の日中活動でアルミ缶回収の活動に関わらせていただいている天内です。地域の方々からいただいた缶は利用者の工賃収入に繋がっています。

昨年12月、南万騎が原自治会ご理解のもと、連の近隣エリアでご協力いただけるご家庭と話を進め、新たな地域での回収が始まりました。回収を始めてから3か月が経過した現在でも定期的に缶を出していただける方は多く、回収袋に缶が入りきらない時もあります。本当に心から感謝しています。

回収をしていると、直接回収先の方とお会いできる事もあります。

挨拶に対し、利用者のコミュニケーションの仕方は様々です。元気に声を出す人、ウインクや手を振る人、ふふふと笑いながら缶をもらって通りすぎる人、質問に「まあね」とニヤリ笑う人。その人その人によって、返答は異なります。そんな利用者に対し、関心を持たれてさらに声を掛けいただけることもあります。

限られた時間の中ですが徐々に回収先の方との会話も広がってきています。出会った際には挨拶に加え、表情や身振り手振りや声掛けなどのいつも同じとは限らない“+α”があります。缶回収は毎週同じようでいつも違う。回収先の人も利用者も笑顔が多いのはその“+α”があるからだと思っています。

アルミ缶の回収を通して始まった新たな出会い。一緒に回収に参加させていただきながら、利用者以上に私も回収日を楽しみにしています。



日中活動支援スタッフ 天内



good job !

「good job！」では日々支援に携わる連の職員たちのモチベーションや、仕事をする上で大切にしている事など…様々な想いを職員の言葉でつづります。是非、ご一読ください！（広報委員）

『人の人生に関わり、支えたい』という気持ちから、この仕事を選びこの仕事に就きました。

仕事を始めてみて、学生時代に学んだ事とのギャップの多さに戸惑うこともありますが、私が思うこの仕事の魅力は利用者さん達の人生の一部に関われ、その人達の姿を間近で見、変化を実感し様々な喜怒哀楽を感じられることです。みなさんを支援し関わってゆく中で、利用者さんそれぞれが、様々な事で最初は難しかった作業なども一緒に試行錯誤し徐々にできるようになっていく姿を見ると、私もたいへん嬉しい気持ちになり、人が好きな私にとってはこれも仕事のモチベーションの一つになります。利用者さんとの喜びの共有といったところでは、この一年を振り返ってみると…大変な仕事もありましたが、楽しいと思える仕事もたくさんありました。その中でも一番わたしが楽しかった事は、利用者さんと一緒に外出をすることでした。企画の段階から利用者さんがどうしたら楽しめるかを色々と考えるところからしてワクワクした気持ちにもなりましたし、実施した後に利用者さん達から「楽しかった！」と声があったときは本当に嬉しい気持ちになりました。次年度も皆さんの笑顔の為に、頑張りたいと思います。

次回は、計画相談委員の佐藤沙穂さんにバトンを渡したいと思います。



日中活動 堤

旭地区グループホーム便り

今回は両グループホームのヘルパーさんのご紹介がてら、お仕事のやりがいやモチベーションについて聞いてみました。



田辺さん

親分的な貴重で ファインを引っ張る田辺さん

ホーム開所当時は各々の食器洗いや洗濯はスタッフが行っていましたが、少しずつ自分でできることが増え、そのことがやりがいに繋がっています。



高本さん

いつもみんなを優しく見守る高本さん

利用者さんの色々な側面を知れる時
時折見える意外な部分、今まで知らなかった
特技など知った時に嬉しくなり
やりがいやモチベーションにつながります。

ファイン 西が岡

今年度も休日に遊園地にでかけたり、油淋鶏を作ったり絵手紙に想いを込めたり…

趣味やオフの時間の充実をはかることに力をいれた1年でした。

皆様の支えがあってこそこの地域のなかのグループホームだと思っています。

ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。（生山）

生活支援 冬休み学齢期余暇プログラム報告

～2019年12月26日（木）クッキング & ワークショップ～

クッキングはハンバーグ、スープ、サラダ、ケーキを作りました！

ハンバーグ成型する際「やりたい！！」と積極的な姿勢で情熱を注ぐ様にこねる作業を行って
いました！余暇を楽しみにしていた事を写真の表情からも感じられた一枚です。

ワークショップは工房3Bの利用者を先生で招き、ステンシルでトートバッグ作りを行いました。
最初は緊張していた参加者もパンダ柄を選び、頑張って作ろう！と意気込んで先生の側に移動し
積極的に話しかけ、仕上がりと満足げな表情で笑顔も見られていました！



～2020年1月6日（月）八景島シーパラダイス外出

参加者同士顔見知りで、行動を共にしたり、良い雰囲気でパネル写真を
撮ったりしてきました！海の動物たちとも触れ合い、イルカショーも
仲睦まじく楽しんでいました。

1年の余暇プログラムを振り返って

春はズーラシアへ。園内バスを利用し新エリア「アフリカのサバンナ」を満喫しました。
夏はプールへ。初参加の方が楽しくなった様で敷地内アスレチックに向かって猛ダッシュ
する微笑ましいハプニングも。秋は大池公園でバーベキューへ。率先して火起こしや焼く作業
をする方、食を楽しみ「ん~」と舌鼓を打つ方、満腹になり仰向けで休憩する方…ボランティ
アにも参加していただき12名の大所帯で行ないました！好きな事を通じて心も会話も弾む様
な余暇活動となるよう、地域の方のご協力もいただきながら一緒に楽しめる内容を目指します。

（大野）

皆さんへの気付きが素晴らしい

ヘルパー坂さん

笑顔を心がけ、自分が楽しんで仕事をすることで、利用者さんにも楽しさが伝わってくれれば良いと思っています。うざいと思われることもあるとは思いますが、それが次につながると信じています。

ファイン 鶴ヶ峰



え？！ホームに入職してまだ
半年位だって？？

生活支援員の加藤さん

以前は高齢者施設で働いていました。
ケアをする者から支援する者へと
立場が変わりましたが、
今はみんなと一緒に笑えることが
私のやりがいです



やりたかったんだよ！
ハンバーグ こねるを♪



【はじめに】

法人型地域活動ホームの相談支援事業は、平成28年4月から「基幹相談支援センター」に名称が統一されました。障害のある方やそのご家族、また地域のみなさまにとって、より敷居の低い総合相談窓口になれるよう日々取り組んでいます。

【いろいろな相談ケースからみえてきたこと】

障害の種別や程度、年齢、手帳の有無、相談内容の縛りはありません。そのため、日々さまざまなご相談が寄せられています。特徴としては、福祉制度や福祉サービスで解決できるような内容は少なく、いくつもの問題が複雑に絡まり、身動きが取れなくなっている相談ケースがほとんどです。相談員は一人ひとりしっかりと向き合い、丁寧にお話を聴かせていただこうことを心掛けながら、一緒にその絡まった糸をほぐしていきます。



今年度を振り返ると、世の中の「8050問題」が如実に現れているように、高齢の親御さんが倒れ、障害のあるお子さんが急遽居場所を失ってしまうといったケースがいくつもありました。突然、誰よりも安心できる家族がいなくなるばかりか、穏やかに過ごせる場所や時間をも失うのです。障害のあるご本人は大きく混乱されます。できるだけご本人に負担がかからないように…と思いを馳せ、過ごせる場の確保にあたりますが、いくつもの場所を転々しながら、長い時間かけて見つけていくことも珍しくありません。

『備えあれば憂いなし』。ご家族がまだお元気なうちから緊急時を想定しておくことが、障害のあるご本人にとって安心して暮らしていくために、何より重要なことです。将来を見据えていっしょに考えていくのも相談支援のひとつです。お気軽にご相談ください。

【障害のある人が暮らしやすい地域づくり】

地域にお住まいの方や関係機関と連携しながら、障害のある方が安心して暮らし続けることのできる地域づくりをしていくのも、基幹相談センターの役割です。

少子高齢化や人口減少社会などを背景に、国は「地域共生社会の実現」を打出しました。公的な福祉サービスだけに頼るのではなく、地域が持つさまざまな資源を活用し、また障害のある人もない人も、ともにお互いの強みを生かしながら支えあっていく社会を作っていくこうという構想です。これまで私たちは、障害児者にかかる専門機関同士の連携やネットワークづくりを中心に取り組んできましたが、これからは、地域住民の方たちとのつながりが重要だと考えています。障害のある人たちは、一様に「助けてもらう側」の人ではありません。私たちが地域住民の方たちとのパイプ役となり、一人ひとりの力や魅力をきちんと伝え、「助ける側」にもなり得るのだということを、たくさん的人に実感してもらえる取り組みをしていきたいと思っています。（箕輪）



INFORMATION

【主な予定】

● 4月1日(水) 年度初めの会

10:30～食堂にて、連の日中活動の皆さんの会です。新しい仲間の紹介など行います。

● 5月13日(水) おはなし会

11:15～11:45 地域交流室にて
小さなお子様とその保護者の方が対象です。

● R2 年度ひなたぼっこさん来館日

6月3日(水)、10月7日(水)

R3年2月10(水)10時～12時、おもちゃ文庫に「旭区子育て支援拠点ひなたぼっこ」さんが来ます

【連・地域交流室からのお知らせ】

● 子育て相談：毎週木曜日

次年度も、毎週木曜日、地域交流室にて
10時～12時の時間で行います。

● 緑ヶ丘自治会 総会 4月12日(日)

10時～12時／連2F 食堂にて

● 南まきが原自治会 総会 5月9日(土)

10時～12時／連2F 食堂にて

【ボランティアさん募集】

サポートセンター連では、日中活動を中心にボランティアさんを募集しています。ボランティアに興味をお持ちの方は、ぜひ下記までご連絡ください。

問合せ先：360-9778 担当：成田

～編集後記～

早いもので令和の時代がスタートして一年を迎えようとしています。私は、新卒として去年の4月から日中活動支援スタッフとして働いています。学生時代アルバイトをしたことがなかったので“働く”ということが初めての経験でした。はじめは、右も左も分からず不安でしたが先輩方や利用者さんに支えていただき、学びの日々を過ごすことができました。2年目は、新たなことにチャレンジしていく年にていきたいと思います。そんな私も10年前は、中学生でした。あるとき学校の授業で未来の自分に手紙を書くことがありました。その書いた内容は、はっきりと覚えていませんが過去の自分に『なりたかった職業とは、少し違うけど今充実した日々を送っています。素敵な仲間とも出会うことができ、とても誇りに感じています』と手紙を送りたいです。利用者の皆さんにも昨日よりも今日の方が楽しい！今が一番輝いて作業できている！と感じて頂けるような支援を築いていけたらと感じています。

(広報委員 秋山)

2020年～書初め～

令和2年、今年の年男・年女さん達は利用者さんが3名、職員11名の合計14名新年、仕事始めの1月6日(月)に14名の中から6名の年男・年女さんが参加し巨大書初めを完成させました。
みんなで「子」と「2020」を一筆、一筆分担し、力強く書いていました。
今年は「子」の文字が右向きの「ネズミ」に仕上がっていきますね～！



地域交流 今年度の思い出

今年度も地域の皆さんと連のみんなで、大・小…様々なイベントを通じ交流してまいりました。初夏には駐車場にてシャボン玉をしたり、夏は連ギャラリーや自治会まつりに、スイカ割。秋には連ふれあいまつりやハロ윈イベント。定期的に開催しているおはなし会等々…書き込みきれませんが、地域の親子さんをはじめ今年度も様々な出逢いがありました。

次年度もたくさんの出逢いの中で、地域の中で障害を持っている方達がいる当たり前の風景を大切にしていきたいと思います。



今年度
最後のイベントは
「ひなまつり」
お雛様を作つたり



顔出しパネルを使って
お雛様になってみました！

地域交流担当 禾木

地域交流イベントやおもちゃ文庫ミニイベントの情報はfacebookなどにも掲載しています！是非ご覧ください！

地域活動ホームサポートセンター連

検索



●訪問の家ホームページ

<https://www.houmon-no-ie.or.jp/>

●連のブログ(訪問の家ブログ)

<https://www.houmon-no-ie.or.jp/blog/ren/>

●Facebook

<https://www.facebook.com/supportcenterren/>